

(1)環境調査の概要

【調査時期】 2023(冬)～2024(秋) 四季を通じた調査を実施
【調査内容】 植物、哺乳類、鳥類、両生類、爬虫類、昆虫類 等

札幌市環境影響評価条例の対象規模に該当しないが、環境影響評価に準じた、調査項目・方法で実施。

(2)調査結果(速報)

施設内及び想定改変区域内で確認された、環境省レッドリスト等に基づく重要種を記載。また、()内は、最も多く確認された1日あたりの延べ回数を示す。

【植物】
サルメンエビネ1株、フクジュソウ4株
【鳥類】

営 巣:無し
飛翔等:ハチクマ(2)、ハイタカ(1)、オオタカ(1)、オオセグロカモメ(6)、クマゲラ(2)、オオムシクイ(1)

【昆虫類】
マダラフトヒゲナガゾウムシ(1)、チャイロスズメバチ(1)、ウラギンスジヒョウモン(1)

【哺乳類】
ヒグマ(3)

※現地調査は、施設周辺を含めた範囲で実施
※昆虫類は、上記の他、分類や種類を特定作業中である
※その他調査結果は、現在精査中である

-現時点の予測評価-

・周辺に同質の環境が広く分布しており、事業による影響は小さいと予測される。
・適切な保全対策を検討し必要に応じて移植等を実施。
(鳥類については、今後の生息・営巣状況に注視が必要。)

(参考)
樹木伐採想定本数:約1,000本(うち大径木:4本)
※大径木:樹高15m以上、胸高周囲長1.5m以上を対象

〈参考写真〉

動植物

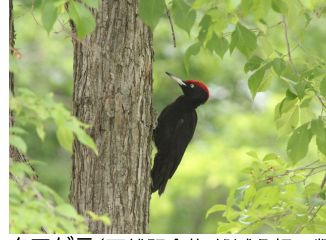
・左記調査結果のうち、環境省レッドリスト等で上位の категорияに指定されている種は以下の通り。
・「絶滅危惧ⅠA類」に指定されている種は確認されていない。



サルメンエビネ(絶滅危惧Ⅱ類,絶滅危惧種)



フクジュソウ(絶滅危急種)



クマゲラ(天然記念物,絶滅危惧Ⅱ類)



ウラギンスジヒョウモン(絶滅危惧Ⅱ類)

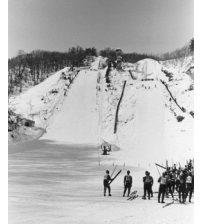
※絶滅危惧ⅠA類:ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高い種
※絶滅危惧ⅠB類(絶滅危惧種):近い将来における野生での絶滅の危険性が高い種
※絶滅危惧Ⅱ類(絶滅危急種):絶滅の危険が増大している種

歴史的経緯

・ノーマルヒルは、かつて「雪印シャンツェ」が併設されていた場所に配置し、環境への影響を最小限に抑えていく。



大倉山ジャンプ競技場(現状)



(札幌市公文書館所蔵)
雪印シャンツェ(1967年頃)